

平成 30 年度第 1 回大磯町地域公共交通会議 会議録

日 時：平成 30 年 6 月 19 日（火）午前 10 時 00 分から午前 10 時 45 分まで

場 所：大磯町役場本庁舎 4 階 第 2 委員会室

出席者：12 名（栗原委員、吉野委員、小堤委員、木村委員、井上委員、浅野委員、作古委員、伊澤委員、西ヶ谷委員、松澤委員、小松委員、金岡委員（代理）、事務局 4 名

傍聴者：0 名

1 開会

委員紹介、事務局職員紹介、資料確認

※ 以後の議事進行は会長

- ・ 会長あいさつ
- ・ 会議を公開とすることに決定

2 議題

- (1) 西小磯東区の一部地域における乗合タクシーについて
- (2) 大磯町地域公共交通会議委員の推薦について

3 議事経過

【会長】

それでは議題に入ります。本日の議題は 2 件です。

議題 1 「西小磯東区の一部地域における乗合タクシーについて」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは次第に基づき、議題 1 の「西小磯東区の一部地域における乗合タクシーについて」、本格運行初年度である H29 年度の実績報告をさせていただきます。委員の皆様には、資料をお手元に配布させていただいておりますので、あわせてご覧ください。

(スライド 2)

平成 29 年予約型乗合タクシーの概要でございますが、運行日は、月曜日から金曜日の平日で、土日祝、年末年始を除いた運行です。利用者は、西小磯東区の一部の住民を対象としています。運行経路は、当該地域から大磯駅、町立図書館、郵便局、大磯町役場の東へ向かう 4 ルートと、ヤオマサ、東海大学病院の西へ向かう 2 ルートです。利用者負担額は、1 人 1 回の利用で 500 円とし、乗車予約時に複数人まとめて予約を行うと乗車人数に応じて割引となる制度を設けております。利用時間は、平日 8:00 から 18:00 の間で、30 分間隔で設定し、乗降場所は、30 箇所に設置しています。

(スライド 3)

こちらは、乗降場所を示したマップでございます。東ルートの 4 か所は、A が大磯町役場、B が大磯郵便局、C が大磯町立図書館、D が大磯駅です。西ルートの 2 か所は、E がヤオマ

サ大磯店、Fが東海大学大磯病院です。乗降場所は、該当地域内、東西南北にまんべんなく設置しています。

(スライド4)

H29年度の利用実績をご報告させていただきます。運行日数は、平日運行で244日。1日当たりの最大運行便数は21便。実運行便数は、年間で1,084便。延べ利用者数は、1,231人です。また、1日当たりの平均便数は、4.4便で、1日当たりの稼働率は、21.2%、1日当たりの平均利用者数は、5人です。1便当たりの平均輸送人数は、1.1人となっています。なお、登録者数は、H29年度末で、252人でした。

(スライド5)

H29年度の乗合実績でございます。年間の総運行便数1,084便のうち、2人以上を乗せた便数は、139便でございます。内訳は、東ルートが100便、西ルートが39便、全体の便数における割合は12.8%です。それから、年間の延べ利用者数1,231人のうち、2人以上で乗合した人の数は、284人です。内訳は、2人乗合が135便、3人乗合が2便、4人乗合が2便で、延べ利用者に対する2人以上の乗合利用者の割合は、23.1%となっています。

(スライド6)

ここからは、各項目ごとの利用実績をグラフで示しています。左側の東西ルートの利用者数円グラフを見ると、東ルートが全体の7割以上を占めていることが分かります。その内訳としては、右側の目的地ごとの利用者数の円グラフを見ると、東ルートでは大磯駅が全体の目的地の半数以上を占めていることが分かります。同様に西ルートについては、全体の2割強ほどですが、目的地としては大磯病院がほとんどを占めている状況となっております。

(スライド7)

このグラフは、利用時間ごとの利用者数の推移を示しています。縦軸が乗車数、横軸が運行時間となっております。黄緑色の棒線が東ルート、水色の棒線が西ルートとなっております。東ルートは、午前10時代の便の乗車数が特に多くなっていて、その他は、朝・夜の便を除くと比較的同程度の利用があることが分かります。一方、西ルートについては、午前8時の便が多くなっております。これは、大磯病院で受診される方が多く利用されていることが推測されます。なお、午後の便になると利用者が減少しており、西ルートについては病院以外での利用が低調なものと推測されます。

(スライド8)

このグラフは、地域内にある各乗降場所の乗車数を示しています。パンフレットの地図とも併せてご覧ください。縦軸は乗車数、横軸は各乗降場所の番号となっております。一見して明らかなように1、4、7、10、11番の利用が多く見てとれます。1～11番の乗降場所がある地区は赤坂台地区で、急勾配な道路によって市街地が形成され、高齢化率も40%以上という地域であり、この地区の公共交通について検討の中心となった地区で、地区の方々の積極的な利用がなされている状況です。一方、それ以外の地区の乗降場所については、25、28番の利用が多いものの、その他の乗降場所では0人という場所も散見されるように、それほど利用されていない状況です。

(スライド9)

実証運行だった H28 年度と、本格運行を開始した H29 年度との比較であります。概ねの項目で数値の増加となっています。とりわけ、運行便数は 980 便から 1,084 便へと、約 10% の増加。利用者数は、1,138 人から 1,231 人へと、約 8% の増加となっています。

(スライド 10)

乗合実績の比較であります。前ページでご紹介したとおり、運行便数と利用者数はともに 10% 前後増加していますが、2 人以上の乗合便数は、151 便から 139 便へと、2.6% 減少しています。また、2 人以上の乗合者数は、310 人から 284 人へと、4.1% 減少しています。

(スライド 11)

最後に、H29 年度の稼働状況のまとめといたしまして、生活交通確保維持改善計画内で謳っている目標値、「稼働した便の 1 便当たりの輸送人員」が 1.5 人以上、「全運行本数に対する実運行本数の稼働率」が 30% 以上には届きませんでした。登録者数、運行便数、延べ利用者数ともに 10% 前後増えており、全体的に利用は増加しています。乗合率の向上という課題はあるものの、現在の予約型乗合タクシーによる「大型車両の乗入が出来ない地域への、少人数の輸送手段」としては、十分に機能している。と考えております。以上のことから、H31 年度も「同様の内容」で、「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」の申請をいたしたく、「生活交通確保維持改善計画(案)」のご承認をいただきたいと思いますので、ご審議のほどよろしくお願いたします。

【会長】

それでは、ただいまの事務局の説明につきまして御意見、御質問等がありましたら発言をお願いいたします。

【委員】

乗合タクシーを利用された方の行きと帰りとの違う交通を利用した等のデータは取っていますか。また、何か効果的な需要喚起の方策を取っていますか。

【事務局】

乗合タクシーの利用については、登録時に登録証を発行しているので、誰がどの目的地に行き、どの目的地から誰が帰ってきた等のデータは所有している。ただ、データは所有しているが、行きと帰りとの利用率の違い等の数値は出していない。需要喚起については、計画策定に当たって、当該地域の住民と協議を重ねて周知を図ってきた。また計画策定後は、町の HP で Q&A も含め、周知を行っているが、H29 年度の本格運行以降は、他の周知方法には取り組んでいない。現状として、利用者は増加しているが、乗合率の減少も課題としてあるので、新たな方策は必要だと感じている。今後アンケート等を行いながら、ニーズの把握もしていきたい。

【委員】

行きと帰りの属性を分析出来たら、何か今後に向けてヒントが出てくるかもしれない。また、需要喚起については、特に高齢者世代には HP は見ない人も多いので、例えば、モニターを募り、その体験を通して、その体験者から広がる口コミ等も効果があると思う。

【事務局】

利用者の目的地について、「大磯駅」が多いのは当然だと思うが、買い物利用の目的地であ

る「ヤオマサ」の利用が意外と少ない。買い物不便の対応として、「ヤオマサ」が目的地に入っていると思うが、アンケート等で「利用目的」を改めて洗い直し、その結果をフィードバックしたりすると効果的かもしれない。

【事務局】

以前、当該地域の住民との話合いの中で、「買い物は週末に家族と一緒に行って、まとめ買いをする」という意見もあった。現状は平日運行だが、仮に土日運行すると、そういう方の需要を拾えるかもしれないが、委託事業費とのバランスも取らなければいけない。ただ、アンケート等で住民ニーズを把握することが、新たな需要喚起に繋がると思っているのも、まずはニーズを把握したいと思う。

【委員】

利用時間がかなり偏っているが、乗りこぼしや、予約が取れない等のケースは発生していますか。

【事務局】

今まで、委託業者や町の方に、乗りこぼしや、予約が取れない等で意見・要望があったことはありませんので、利用者の方は、おおむね希望の時間通りに乗れていると思う。

【委員】

現時点で252人の登録があるが、実際にどれくらいの方が利用しているか、利用率の把握はしていますか。

【事務局】

利用者についてのデータは持っているが、利用率までは集計していない。ただ、データ登録時の感想としては、登録者全員が平均的に利用しているのではなく、利用率の高い人と、そうでない人に偏っている傾向はあります。

【委員】

鉄道と乗合タクシーのダイヤはリンクしていますか。

【事務局】

30分間隔で、スケジュール設定しているので、鉄道のダイヤについては、そこまで顧慮していない。

【委員】

他の地域の会議で、「駅についたら電車が行ってしまい、乗り継ぎが悪い」という意見が出ていたので、その辺りを顧慮できると、需要の拡大にも繋がると思う。

【会長】

他に何かありますか。御意見も出尽くしたようでございます。それでは、この議題1について、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

【委員全員】

(委員全員「異議なし」の声)

【会長】

それでは、異議ないものとして、今回のH31年度申請へ向けた「生活交通確保維持改善計画(案)」は、承認させていただきます。

【会長】

それでは、事務局より議題2「大磯町地域公共交通会議委員の推薦」について、説明をお願いします。

【事務局】

議題2の「大磯町地域公共交通会議委員の推薦」について、現在、委員の皆様にご委嘱させていただいている期間が、今月の6月26日で2年の任期が終了いたします。それに伴い、引き続き各団体から、次の任期の委員のご推薦をいただきたいと思っております。別紙にて、委員の更新がない場合は、「委員変更無」にチェックを入れてください。また、委員の変更がある場合は、新たな委員の方の役職・氏名を明記の上、6月28日（木）までに、事務局まで返信願います。よろしくお願いいたします。

【会長】

それでは、委員の推薦については、6月28日（木）までに事務局まで、ご連絡をお願いいたします。議題2については、以上となります。何か他にありませんでしょうか。

【事務局】

この場をお借りして、現在、町で取り組んでいる地域公共交通をお話しさせていただきます。路線バスが撤退した富士見地区（虫窪・黒岩・西久保）で、町がその路線を維持するために、町が支出をして運行を補助している補助路線バスがございます。前々から、この町補助路線バスに対して、議会等から「町の支出が多いのではないか」との指摘を受けており、近々の課題として取り扱ってきました。ここに来て、富士見地区の3区長との話合いの中で、朝夕の児童・生徒の乗降の需要がある一方、日中の利用はあまりなく、一部の人からは「日中は空気を運んでいる」など言われてしまうような現状があり、町としても、その改善と利用率の向上を目的として、「行政から押し付けられた地域交通」ではなく、「住民と一緒に、地域にとって最も良い乗り物」を考えていきたいと思っております。

今後、この「大磯町地域公共交通会議」の場で、その経過をご報告させていただくとともに、委員の皆様からのお知恵を拝借できればと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

【会長】

他にはありませんでしょうか。他には無いようなので、以上をもちまして、平成30年度第1回大磯町公共交通会議を終了いたします。本日は貴重な御意見ありがとうございました。お疲れ様でした。